

# 日中オノマトペにおける「笑い」表現の 使用とその日中対訳

孫 逸

## 1. はじめに

オノマトペは言語音と意味の間に有縁的な関係があるとされる語群であり、その言語音と意味内容の関わりは模写の関係にあると言われる。オノマトペは音や声を真似た擬音語と状態を真似た擬態語に大別される。日本語と中国語にはどちらにもオノマトペが存在しているが、その語数や使用率、および使用方法には大きな相違がある。

日本語におけるオノマトペは、同じような場面で使われるオノマトペ同士が語形の上では似ているように見えるが、それぞれの語が異なるニュアンスを有している場合が少なくない。例えば、「笑い」を表現するときに、日本語で「にこにこ」「にやにや」「にたにた」などが用いられる。日本語話者にとっては以上のようなオノマトペの使い分けは問題にならないが、日本語学習者がそれらのニュアンスを理解して正確に使用することは容易ではない。また、このような日本語オノマトペが中国語に訳される時には、訳されない場合と同じ語で解釈される場合が多いため、区別が明確でないと言える。

「にこにこ」「にたにた」「にやにや」の三つのオノマトペは語形の上では似ているものの、意味がどのように異なっているのかという点や同じ文型でオノマトペだけを入れ替えた場合にどのようなニュアンスの差異が生まれるかという点については、日本語学習者には理解が困難であると言える。すなわち、オノマトペの習得と使用は、日本語学習者にとって難しい課題の一つとなっている。

本稿は、オノマトペの中で基本的な感情表現と考えられる「笑い」に関するオノマトペを中心に、日本語と中国語での使用状況と使用特徴を考察し、日中対訳する際に生じやすい問題について検討する。

## 2. 先行研究

### 2. 1. オノマトペの定義について

日本語はオノマトペを用いた表現が豊かな言語であると言われている。近年では、日本語オノマトペに対する関心が高まっており、言語学だけではなく、認知科学、心理学など多様な分野から、日本語オノマトペが研究されている。

丹野(2005)は、オノマトペの音韻上の特徴と心理学との関係を検討した。丹野(2005)は、「オノマトペ」とは「音による命名、音自身が名になる」もののことであると述べている。これを踏まえると日本語の「オノマトペ」とは「あるもの、ある現象」を音によって指示すること、「あるものの状態、あるものの発する音」をそのまま指示

すること、と捉えることができる。つまり、日本語における「オノマトペ」という用語は、主に擬音語・擬態語の総称として用いられていると言える。

中国語の“象声詞”の定義について、耿（1986）は、“拟声词（擬声詞）”の別称である“象声词（象声詞）”が、自然界の音声を模倣する言葉であると述べている。それらは、造語法によって生じたものであり、自然界の音を模倣することで独自に系統を保っていると述べている。

中国語の“象声詞”の定義から、中国語では日本語の「擬態語」に相当する語がないと考えられるが、実際の用例を見ると、中国語の中にも様子や状態を表す働きをしている語もある。

中国語の“象声詞”は「擬音語」だけに相当する説（耿（1986））もあるが、それに対し、野口（1995）では、擬態語に当たる言葉は中国語の文法用語にはないことを指摘している。しかし、野口（1995）は用語がないからといって擬態語自体がないわけではなく、ABB型形容詞は擬態語の一種であると指摘している。そのほか、文語の疊語・疊韻・双声の単語や口語における重ね形の中には擬態語的なものも含まれると述べている。

また、中国語において「擬態語」に相当する語があるかどうかについて、刘（2001）は、「“象声詞”は実際の音、声や様子を言語音で象徴的に表す語を指す。…しかし、“象声詞”は全部実際の音や声を模写しているわけではなく、具体的な音で物事の様子を表すときもある。」と主張している。

本稿は、先行研究の観点を踏まえ、中国語にも擬態語に相当する語があるという立場に立ち、考察を行う。なお、以下では日本語の場合は擬音語と擬態語を合わせて「日本語オノマトペ」という語を用いるため、中国語についても便宜的に用語を揃え、「中国語オノマトペ」と呼ぶことにする。

## 2. 2. 日中オノマトペの翻訳について

前述したように、中国語オノマトペの語数は日本語オノマトペより少ないため、翻訳する際に、日本語オノマトペに対応する中国語オノマトペが無い場合が多いことが指摘されている。従って、オノマトペに関する日中対照研究は、日本語オノマトペを中国語に訳そうとした時に、中国語に対応するオノマトペが無い場合には中国語でどのような表現を用いるのか、という点について論じているものが多数見られる。

呉（2005）は、日本語の文学作品『雪国』に出現したオノマトペ224例とそれに対応する3種の中国語訳の妥当性を、翻訳の視点から検討した。まず、呉（2005）は擬音語を翻訳しやすいものと翻訳しにくいものと2つに分けている。その上で翻訳しやすいものについては、中国語にもそれに相当する象声詞があることが翻訳しやすいことの原因であるとしている（例：ごくごく→咕嘟咕嘟（gu du gu du)）。一方で、翻訳しにくいものについては、中国語ではそれに相当する象声詞がないことが翻訳しにくいことの原因であるとして、これらを翻訳する際には、無理に象声詞に訳すより、原文の意味をよく理解した上で、ほかの語彙に訳す方が理想的であると述べ、より良い翻訳方策も

提示している。

次に呉（2005）が提示した翻訳方法を踏まえ、さらに具体的に翻訳方法を示したのが徐（2010）である。徐（2010）は擬音語、擬態語の翻訳について13種類<sup>1</sup>の通訳方法を提案した。徐（2010）では、多様な翻訳法を提示し、日中オノマトペが翻訳される際に直面する問題に対する解決方法を複数提案している。しかし、実際に翻訳する時、どの方法を選択することがより適切であるかという点について、その判断基準はまだ明らかになっていない。さらに、日中両言語におけるオノマトペの間にどのような相違点が生じたのかという点やその相違点が生じた原因の解明については、議論の余地があるものと見える。

### 3. 研究対象と研究方法

まず、日本語の「笑い」に関するオノマトペは、『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語4500』における「感情・感覚に関するオノマトペ」－【笑う】の部分で取り上げられている74語<sup>2</sup>を対象とし、オノマトペの使用頻度を調べた。

また、中国語の「笑い」を表すオノマトペを抽出するため、『現代汉语规范词典』（2012版）、『新华大字典』（2012版）、『现代汉语词典』（2012版）を参照し、「笑う声」「笑う様子」「笑う表情」のような意味を持っている語、すなわち「笑い」を表現する18語<sup>3</sup>を取り出した。

本稿では、日本語コーパスと中国語コーパスをそれぞれ利用して用例調査を実施するという研究方法を採る。日本語のオノマトペは、国立国語研究所で制作された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）（以下は「BCCWJ」と称する）を用いて用例を収集し、中国語のオノマトペは、『現代汉语语料库』（CCL）（以下は「CCL」と称する）を用いて用例を収集した。日中両言語のコーパスをそれぞれ利用し、「笑い」に関するオノマトペをそれぞれ調査することで、日中両言語における「笑い」に関するオノマトペの使用実態を把握する。さらに、コーパスの用例を参照しながら、「笑い」を表現するときに使用される日中オノマトペが、それぞれどのような特徴を持っているのかについて、詳しく検討する。

また、日中・中日辞書を参照し、「笑い」に関する日中オノマトペが対訳されるときに、どのような相違点が生じるのかという点を明らかにする。さらに、その相違が生じた理由の分析も実施し、日中感情オノマトペが翻訳される際に現れやすい相違点の予測を目指す。

## 4. 日中オノマトペの使用

### 4. 1. 日本語側

日本語における「笑い」に関するオノマトペの使用頻度を調査するため、「BCCWJ」を利用して研究対象の74語の用例数を調査した。その結果は以下の表1のようにまとめた。

表1 「BCCWJ」で調査した日本語における「笑い」に関するオノマトペの用例数

| 語    | 用例数 | 語      | 用例数 | 語     | 用例数 | 語      | 用例数 |
|------|-----|--------|-----|-------|-----|--------|-----|
| にこにこ | 972 | げらげら   | 127 | あっはっは | 36  | にっこにこ  | 5   |
| にっこり | 914 | ほくほく   | 123 | からから  | 33  | えへらえへら | 5   |
| ははは  | 860 | わーっ    | 109 | ふっふっ  | 33  | うひょうひょ | 4   |
| あはは  | 748 | くすっ    | 107 | ころころ  | 32  | くっく    | 4   |
| にやり  | 639 | はっはっは  | 95  | ほっほっ  | 26  | けっけっ   | 4   |
| にやにや | 445 | きゃー    | 71  | くすん   | 23  | かかか    | 3   |
| ふふ   | 395 | くすり    | 69  | けたけた  | 23  | きゅっきゅっ | 2   |
| うふふ  | 357 | けらけら   | 67  | おほほ   | 21  | くーっ    | 2   |
| くすくす | 289 | へらへら   | 67  | けけ    | 18  | けろけろ   | 2   |
| ぶっ   | 285 | くっくっ   | 66  | へっへっ  | 13  | ぶー     | 2   |
| くっ   | 272 | がはは    | 54  | にかっ   | 13  | にたりにたり | 2   |
| にやっ  | 210 | わはは    | 52  | うふっ   | 10  | にーっ    | 2   |
| にこっ  | 196 | どっ     | 52  | くくっ   | 10  | かんらんらん | 1   |
| ほほほ  | 193 | ひひひ    | 50  | うひひ   | 9   | げたげた   | 1   |
| えへへ  | 181 | ふっ     | 50  | にたっ   | 9   | ぎゃはは   | 0   |
| へへへ  | 165 | ふふん    | 46  | いひひ   | 7   | くすりくすり | 0   |
| にこり  | 161 | にたにた   | 43  | うっしっし | 6   | げたっ    | 0   |
| にっ   | 148 | きゃっきゃっ | 40  | ひっひっ  | 6   |        |     |
| にんまり | 145 | うはうは   | 39  | あはあは  | 5   |        |     |

『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語4500』の内容を参照したところ、以下のような解釈が見られた。

- (1) a. おほほ：【声・さま】口をすぼめて軽く笑う声。上品に、または氣どって笑うさま。
- b. からから：【声・さま】高く笑う声。屈託無く笑うさま。
- c. ははは：【声・さま】屈託無く快活に笑う声。また、そのさま。
- d. にこにこ：【さま】嬉しそうに笑みを浮かべ続けるさま。
- e. にっこり：①【さま】明るい表情で笑うさま。
- ②【さま】和やかなさま。心地よいさま。

(1)のような語釈から、日本語における「笑い」に関するオノマトペは、【声・さま】と【さま】という二種類に分けられる。いわゆる、前者は「擬音語」「擬態語」の性質を両方持っている語であり、後者は「擬態語」の性質だけを持っている語である。検索対象の74語の「笑い」に関するオノマトペの解釈を見ると、「擬声語」「擬態語」の分布は以下の表2になる。

表2 日本語における「笑い」を表現する「擬音語」と「擬態語」の用例分布

| 分類                      | 語数／比率      | 語例  | コーパスでの用例数／比率 |
|-------------------------|------------|---|--------------|
| 【さま】<br>——擬態語           | 20 / 27.0% | うっしっし、えへらえへら、にーっ、にかっ、にこっ、にこり、にっこり、にこにこ、にたっ、にたにた、にっ、にっこにこ、にやっ、にやにや、にやり、にんまり、ほくほく | 4038 / 44.5% |
| 【声・さま】<br>——擬音語・<br>擬態語 | 54 / 73.0% | げらげら、くすくす、がはは、からから、くっくっ、ふふん、ははは、ひひひ   | 5040 / 55.5% |

表2から、日本語における「笑い」に関するオノマトペのうち、「擬態語」の数は20語であり、比率は全体の27%しか占めていないが、実際のコーパスでの用例数を見ると、その用例数は全体の用例の44.5%に上ることが確認できた。その用例数の比率はほぼ5割に至っており、「擬音語」の用例の比率と比べても、差はそれほど大きくなかった。すなわち、語数から見ると、日本語における「笑い」に関するオノマトペでは、たしかに「擬音語」のほうが数が多いが、実際の使用状況に関しては、擬態語の使用率は決して低くないと言える。

#### 4. 2. 中国語側

本節は中国語の「笑い」に関するオノマトペの使用頻度をコーパスで調査する。まずは、中国語コーパス『現代汉语语料库』(CCL)を利用して、研究対象の出現頻度を調査した。調査した結果、用例数が現れたのは18語であり、以下の表3のようにまとめた。

表3 中国語における「笑い」を表すオノマトペの用例

| 語   | 用例数  | 語   | 用例数 | 語   | 用例数 |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| 哈哈  | 6277 | 笑咪咪 | 722 | 噗嗤  | 93  |
| 呵呵  | 1504 | 笑吟吟 | 411 | 笑哈哈 | 81  |
| 嘿嘿  | 1311 | 笑盈盈 | 238 | 笑微微 | 29  |
| 笑嘻嘻 | 1222 | 笑呵呵 | 235 | 笑咧咧 | 8   |
| 嘻嘻  | 1033 | 哧哧  | 167 | 嚅嚅  | 3   |
| 咯咯  | 837  | 嘎嘎  | 145 | 笑嘿嘿 | 1   |

《现代汉语规范词典》(2012)の解釈を参照したところ、中国語の「笑い」に関するオノマトペの意味は、以下ようになる。

- (2) a. 哈哈：〔拟声〕模拟大声的声音。(筆者訳：〔擬声〕大笑いの声を真似する語)  
 b. 呵呵：〔拟声〕模拟笑的声音。(筆者訳：〔擬声〕笑い声を真似する語)  
 c. 嘿嘿：〔拟声〕模拟笑声(多叠用)。(筆者訳：〔擬声〕笑い声を真似する語(疊語が多用される))  
 d. 噗嗤：〔拟声〕模拟忍不住突然发出的笑声。(筆者訳：〔擬声〕突然の笑い声を真似する語)
- (3) a. 笑哈哈：形容张口大笑的〔样子〕。(筆者訳：口を開けて笑う〔様子])  
 b. 笑呵呵：形容由于内心喜悦而发笑的〔样子〕。(筆者訳：心からの喜びで笑う〔様子])  
 c. 笑咪咪：形容微笑时眯起眼睛的〔样子〕。(筆者訳：目を細めて微笑する〔様子])  
 d. 笑咧咧：形容笑时嘴角向两边伸展的〔样子〕。(筆者訳：口が両側に伸びながら笑う〔様子])

(2)(3)の解釈からうかがえるように、《现代汉语规范词典》(2012)には、オノマトペの意味解釈に“拟声(訳：擬声)”や“样子(訳：様子)”といった注釈が付されている。これらの注釈から、音か様子かの区別ができるため、それをもとに、「笑い」に関するオノマトペを「擬音語」と「擬態語」に分けることができる。表4は、中国語の「笑い」に関するオノマトペでの擬音語と擬態語の使用状況を比較したものである。

表4 中国語における「笑い」を表現する「擬音語」と「擬態語」の用例分布

| 分類  | 語数/比率   | 語例          | コーパスでの用例数/比率 |
|-----|---------|-------------|--------------|
| 擬音語 | 9/50.0% | 哈哈 嘿嘿 呵呵    | 11370/79.1%  |
| 擬態語 | 9/50.0% | 笑咪咪 笑呵呵 笑哈哈 | 2999/20.9%   |

表4から分かるように、中国語では、「笑い」を表現する擬音語と擬態語はそれぞれ9語であり、語数から見ると擬音語と擬態語の差は見られないが、実際のコーパスでの用例数をまとめてみると、擬音語の用例数は11370例であり、比率は79.1%に上った。それに対し、擬態語の実際の使用率は、20.9%に過ぎない。表4から、中国語における「笑い」に関するオノマトペの使用実態として、擬音語の方が多用されていることが明らかになった。

日本語では、74語中の27%に過ぎない擬態語が、使用例中の44.5%を占めるのに対し、中国語では、18語中の50%を占める擬態語は、使用例中の20.9%に過ぎない。笑いを表す日本語オノマトペにおいて、擬態語の役割が大きいことがわかる。

以上のように、日中「笑い」に関するオノマトペの語数と使用率には、大幅に差があることが確認できた。このことが日中対訳時に生じる問題の一因となっているのではないかと推測される。したがって次節では、日中オノマトペの対訳の実態について詳しく考察する。

## 5. 日中「笑い」に関するオノマトペの対訳

### 5. 1. 辞書から見た日中「笑い」オノマトペの意味解釈

第4節では、日中両言語における「笑い」に関するオノマトペの使用状況を調査した。調査した結果から、日本語の「笑い」に関するオノマトペでは擬態語が多用されていることに対し、中国語の「笑い」に関するオノマトペでは擬音語が多用されていることが明らかになった。日本語と中国語における「笑い」に関するオノマトペの使用状況の相違を把握した上で、日中対訳する時に生じやすい相違点を検討する。具体的には日中・中日辞書を利用して、両言語がお互いにどのように翻訳されるのかという点と、翻訳された後に意味上の差異が生じたかという点とについて考察する。日本語のオノマトペの中国語翻訳を見るため、『日中辞典』（小学館）と『日漢大辞典』（上海訳文出版社・講談社）との二冊を選んで各語を調べた。

表5 日本語における「笑い」に関するオノマトペの中国語翻訳

| 日本語のオノマトペ | 日中辞典（小学館）                                    | 日漢大辞典（講談社）                             |
|-----------|--|--|
| にこにこ      | ●笑嘻嘻， <u>笑眯眯</u> ， <u>笑吟吟</u> ， <u>微微笑</u> 。 | ●笑嘻嘻。高兴的微笑状。                           |
| にやにや      | 默默地笑。  | 暗笑，冷笑，嗤笑，不出声地在脸上浮现出笑容。或冷冷地、另有含意似的独自发笑。 |
| にんまり      | 得意的微笑。                                       | （如愿以偿之后）嘴角浮现出满意的微笑状。                   |

|      |                                      |                                   |
|------|--------------------------------------|-----------------------------------|
| にたにた | 狰狞的呆笑貌，龇牙咧嘴地笑，傻笑，冷笑。                 | 狞笑，不出声的、脸色令人恐惧的笑。                 |
| にやり  | 一笑。                                  | 微笑。冷笑。不出声地在脸上浮现出笑容貌。              |
| くすくす | ●窃笑，你小，小声（地笑），哧哧（地笑）， <u>嘻嘻</u> （地笑） | （副）窃笑貌。偷笑貌。                       |
| けらけら | ● <u>咯咯的</u>                         | ● <u>哈哈大笑</u>                     |
| げらげら | ● <u>哈哈大笑</u>                        | ●大笑不止。笑得前仰后合。                     |
| からから | ●（笑い声） <u>哈哈</u> 。                   | 男性高声大笑貌。                          |
| ころころ | ●（笑い声） <u>格格</u>                     | ●（笑声） <u>朗朗</u>                   |
| へらへら | ●（しまりなく笑うさま） <u>嘿嘿地傻笑</u>            | 傻笑，憨笑。                            |
| ははは  | ×                                    | ● <u>哈哈大笑</u> （声）。因愉快或感到奇怪而大笑的声音。 |
| ひひひ  | ×                                    | ×                                 |
| ふふふ  | ×                                    | ×                                 |
| へへへ  | ● <u>嘿嘿</u>                          | ×                                 |
| ほほほ  | ● <u>吃吃</u> ， <u>呵呵</u>              | ×                                 |

4. 1節で調査した結果を参考にし、日本語の「笑い」に関するオノマトペの意味を日中辞書で調べた。調べる際、「ぶっ」「にこっ」などのように二つの辞典で見出し語として立項されていない語は省略した。また、「擬音語」の翻訳も見するため、代表的な八行の擬音語を選んで、「ははは」「ひひひ」「ふふふ」「へへへ」「ほほほ」の形で意味を調べた。ここでは八行の5つの擬音語を1つの組として観察するため、「ひひひ」、「ふふふ」のように二つの辞典で立項されていない語も表の中に含めてある。

次に、中国語の「笑い」に関するオノマトペの意味を調べるために、『中日辞典』（小学館）と『中日大辞典』（大修館）二冊を選んで、研究対象である合計18語の中国語オノマトペを全て調べた。

表6 中国語における「笑い」に関するオノマトペの日本語翻訳

| 中国語のオノマトペ | 中日辞典（小学館）                                    | 中日大辞典（大修館）   |
|-----------|--|--|
| 哈哈        | （口を大きく開けて笑う声） <u>ははは</u> 、 <u>わはは</u> 。      | ● <u>ハッハッ</u> ：笑い声。                                |
| 呵呵        | ●（口を半開きにして笑う声） <u>ほほほ</u> 。                  | ● <u>ハハ</u> 、 <u>ホホ</u> ：笑い声。                      |
| 嘿嘿        | ●（いやみのある笑い声） <u>へっへっ</u>                     | ● <u>へへへ</u> 。                                     |
| 嘻嘻        | ●（笑い興じるさま） <u>ふっふっ</u>                       | ● <u>にこにこ</u> 、 <u>くすくす</u>                        |
| 咯咯        | ●（笑い声） <u>くすくす</u> 、 <u>けらけら</u>             | ● <u>ゲラゲラ</u> ：笑い声。                                |
| 哧哧        | ●（吹き出すような笑い声） <u>ぶっ</u> 、 <u>くすっ</u>         | ● <u>ホホホ</u> 、 <u>フフフ</u> ：遠慮がちな、控え目な笑い            |
| 嘎嘎        | ●（大きな笑い声） <u>がらがら</u>                        | ● <u>カラカラ</u> （と笑う）                                |
| 噗嗤        | ●（吹き出すような笑い声） <u>ぶっ</u>                      | ● <u>クスッと</u> （笑う）                                 |
| 嘿嘿        | ●（笑い声） <u>ハハハ</u>                            | （笑い声） <u>ほほほ</u> 。                                 |
| 笑嘻嘻       | ● <u>にこにこ</u> しているさま。                        | ● <u>にこにこ</u> 笑うさま。                                |
| 笑咪咪       | ●（目を細めて） <u>にこにこ</u> するさま。目を細くして笑うさま。        | ● <u>にこにこ</u> するさま。微笑するさま。                         |
| 笑吟吟       | ● <u>にこにこ</u> と笑うさま。                         | ●笑うさま。 <u>にこにこ</u> する。                             |
| 笑盈盈       | ● <u>にこやか</u> である。 <u>にこにこ</u> してうれしそうな（顔つき） | ● <u>こぼれるように</u> 笑いをたたえているさま。 <u>にこやか</u> にしていること。 |
| 笑呵呵       | ● <u>にこにこ</u> と笑うさま。                         | ●思いがこみあげてわらうさま。                                    |
| 笑哈哈       | 声を出して笑うさま。愉快そうに笑うさま。                         | ● <u>ハハハ</u> と笑う。大笑いする。                            |
| 笑微微       | ×  | ×  |
| 笑咧咧       | ● <u>にこっ</u> とほほ笑むさま。                        | ×  |
| 笑嘿嘿       | ×  | ×  |

表5と表6を見ると、「笑い」に関するオノマトペに関する日中対訳には、以下のような相違点が見られる。

- (4) a. 日本語の「笑い」に関するオノマトペの中国語訳について、擬態語は説明的な文で解釈されることが多く、八行で始まる代表的な「笑い声」と思われる擬態語は、訳されないことが多い。

- b. 日中オノマトペの意味は重視される要素が異なっている。日本語の「笑い」に関するオノマトペは笑う時に声の様子を表すものが多いに対し、中国語の「笑い」に関するオノマトペは笑う時に目や口の形などを表すものが多いと言える。
- c. 日本語はイメージ喚起を明確にしているのに対し、中国語はイメージ喚起が曖昧である。

(4a) について詳しく説明すると、表5からわかるように、「にこ」系「にた」系などの擬態語は、“暗笑，冷笑，嗤笑，不出声地在脸上浮现出笑容。或冷冷地、另有含意似的独自发笑”“狞笑，不出声的、脸色令人恐惧的笑”のような詳細な説明文で日本語のオノマトペを解釈している。これは、中国語で当該の日本語の「笑い」に関するオノマトペの意味に当てはまる語がないためであると考えられる。

また、日本語で代表的な笑い声を表すオノマトペと思われる「ハ行」の擬音語は、音声を変えてイメージ喚起（例：マイナスイメージ・プラスイメージ；女性に使用される・男性に使用される）ができるが、それについての中国語訳は、殆ど見られなかった。そこから、日本語のオノマトペの意味は音韻と深く関連しており、音韻の変化で多様な意味の表し分けができるのに対し、中国語のオノマトペにはそれほど深く関連しているとは言えない。

(4b) で挙げた重視される要素について、日本語では「にこ」系「にた」系のように声を出さないで笑う様子を表す語もあれば、「げらげら」「くすくす」のように声を出しながら笑う様子を表す語もある。つまり、日本語の「笑い」に関するオノマトペは、声の有無が明確に判断できる。一方で、中国語の場合は、音声の有無より、目や口の形などを表しながら笑う様子を表現する語の方が多く見られる。

中国語では、“笑哈哈”“笑咪咪”“笑咧咧”などの「笑い」に関するオノマトペがある。(3)の部分を見れば分かるように、“笑哈哈”と“笑咧咧”は口の開け方によって違う笑い方を表現する語であり、“笑咪咪”は目の形を強調しながら笑う様子を表す語である。そのため、日本語は笑う時に声の有無などで笑い表現を区別しているのに対し、中国語は笑う時に目や口の形の変化によって、笑い表現の使い分けをしていると考えられる。

(4c) のイメージ喚起について、(4a) にも少し触れたように、日本語ではハ行音で始まる笑う声の表現は、それぞれのイメージ喚起ができる。また、「にこにこ」はプラスのイメージを持つが、「にたにた」「にやにや」はマイナスのイメージを持つ。このようなイメージ喚起は、日本語における「笑い」に関するオノマトペでは明確であるが、中国語では明確でない。“嘿嘿”を例としてみると、表6から、“嘿嘿”は「(嫌味のある笑い声) へっへっ」「へへへ」に訳され、マイナスなイメージを持つ語であるはずが、実際の用例を見ると、(5)(6)<sup>4</sup>のような用例が見られる。

(5) プラスイメージ用法 (用例数: 78/100)

- a. 他齜着一口结实的黄牙无耻地笑起来: “嘿嘿, 嘿嘿” (“无耻地”——恥知らずに (筆者訳))
- b. 说完这位45岁的老张竟像一个孩子一样拍着手嘿嘿地笑了起来。(像一个孩子一样——子供みたいに、無邪気な (筆者訳))
- c. 那天哥的话语最多, 嗓门最亮, 笑声最甜。说笑间, 哥嘿嘿憨笑着又同母亲开起了玩笑。(憨笑——無邪気に笑う (筆者訳))
- d. 滑竿工还帮助那些想给猴子递食又不敢接近猴子的游客喂猴子食物, 即便是因之差点被猴子抓伤也只会嘿嘿一笑, 以这种简朴的方式庆幸自己的机敏。(简朴的方式——質素のような、シンプルなやり方 (筆者訳))

(6) マイナスイメージ用法 (用例数: 22/100)

- a. “嘿嘿……” 马克思又发出洋溢着睿智的笑声。(“洋溢着睿智的”——知恵が溢れそうな (筆者訳))
- b. 突然, 她感到脖子被一只粗壮的大手卡住了, 扭头一看, 只见男青年手握一把亮晃晃的菜刀, 狰狞的面容嘿嘿地冷笑着。(狰狞的面容——凶悪な顔つき; 冷笑——冷笑する (筆者訳))
- c. “你既然知道是朕, 为什么不下拜?” 那大汉嘿嘿冷笑道: “你又不是俺的大王, 凭啥叫俺下拜?” (冷笑——冷笑する (筆者訳))

(5)の“无耻地”“像个孩子一样”“憨笑”と(6)の“洋溢着睿智的”“狰狞的面容”“冷笑”の意味から、“嘿嘿”は、(5)のようなマイナスなイメージで用いられる場合もあるが、(6)のようなプラスなイメージで用いられる場合もあることが言える。また、“嘿嘿”のイメージ用法について、具体的な割合を調査した。CCLで、“嘿嘿”の用例をランダムで100例を抽出した。その用例を文脈と合わせて判断した結果、プラスイメージ用法の用例は78例であり、マイナスイメージ用法は22例しかない。すなわち、“嘿嘿”はプラスイメージ用法として使用される場合の方が多いことが確認できた。

“嘿嘿”の例から、中国語の「笑い」に関するオノマトペのイメージ喚起は、明確にしていないという特徴を持っていると考えられる。例えば、日本語において、「へへへ」はマイナスイメージと関連しているが、中国語において、“嘿嘿/hei hei”はマイナスイメージ語として用いられる場合もあれば、プラスイメージ語として用いられる場合もある。すなわち、「笑い」に関するオノマトペのイメージ喚起について、日本語側は定着していることが多く、語自体で明確に判断できることにに対し、中国語側は語自体より文脈から判断することが多いと考えられる。

また、日中両言語において、同じ音韻に対してのイメージ喚起には差異がある例が見られた。日本語において、母音が[e]である語「へへへ」や、母音が[i]である語「いひひ、ひひひ」などは、マイナスイメージを喚起することに対し、中国語において、“嘿

嘿/hei hei”は必ずマイナス意味で使われていると言い切れない。実際の用例を見ると、逆にプラスイメージ語として使用される場合の方が多いことが見られる。そのため、日本語での音韻に対してのイメージ喚起を直接中国語に移すことはできないと言える。

以上のように、日本語と中国語における「笑い」に関するオノマトペは音声の有無、イメージ喚起、重視される側面などの要素において相違があると言える。日本語の「笑い」に関するオノマトペは笑い声や笑う様子を表現するだけでなく、その意味には音声の有無、イメージ喚起などの要素を数多く含んでいるため、心情・感情など内面的な意味も含まれる。そのような語を使用することにより、共感を求めることにつながると考えられる。それに対して、中国語の「笑い」に関するオノマトペは声の有無、イメージ喚起の要素について、明確していないところが多い。内面的な意味の提示という機能は日本語ほど強くないと言える。

## 5. 2. 「笑い」に関するオノマトペの日中対応関係

前節では日中両言語の「笑い」に関するオノマトペの意味上の相違点を見た。本節では、それらの相違点があることを踏まえ、日中の「笑い」に関するオノマトペが対訳した場合に対応する意味で用いられているかを検討していく。

まず、観察上の便宜のため、表5と表6で、語釈にする対応オノマトペが記載されている場合に「●」を付けた。表5と表6を比べると、以下の相違点が見られる。

- (7) a. 中国語の「笑い」に関するオノマトペの日本語翻訳では、日本語のオノマトペで直接対応できることが多いことに対し、日本語に「笑い」に関するオノマトペの中国語訳では、中国語のオノマトペで直接対応できることが少ない。さらに、表6からわかるように、日本語のオノマトペの中国語訳は説明文で述べられている場合が多い。
- b. 直接対応関係があるとされていても、日中オノマトペの間には、意味上のずれがあると見られる。

まず、(7a)について詳しく論じる。表5と表6で「●」を付けた部分を見ると、表6の日本語で中国語を訳す場合、日本語の「笑い」に関するオノマトペで直接対応できる語が多いのに対し、表5で中国の「笑い」に関するオノマトペで日本語の「笑い」に関するオノマトペを訳すことが少ない。日本語の「笑い」に関するオノマトペの意味を解釈する時、中国語の「笑い」に関するオノマトペで直接対応させる代わりに、“暗笑，冷笑，嗤笑，不出声地在脸上浮现出笑容。或冷冷地、另有含意似的独自发笑”のように、笑う様子や笑いに含む内面的な意味・感情などを説明的な文で述べることが多く見られた。すでに指摘したように、日本語の「笑い」に関するオノマトペは、声の有無やイメージ喚起など内面的な要素を数多く含んでいる。日本語のオノマトペという単語自体の担う意味が、中国語と相同するオノマトペと比べて多いと言える。日本語の「笑い」

に関するオノマトペの方が、単語として、中国語の「笑い」に関するオノマトペより担っているものが多いと言える。すなわち、日本語の「笑い」に関するオノマトペの方が情報量が多いと考えられる。そのため、日本語のオノマトペを中国語に訳す時には、単に日本語のオノマトペを中国語オノマトペに置き換えるだけではなく、状況や内容を示す言葉が必要になる。

逆に、中国語の「笑い」に関するオノマトペを日本語に訳す時には、直接日本語オノマトペで置き換えるケースが多いが、これは日本語の「笑い」に関するオノマトペの方が単語としての情報量が多いため、直接に日本語の「笑い」オノマトペで訳された中国語の「笑い」オノマトペが、情報量が過剰になる可能性があるためだと推測できる。

すなわち、中国語の「笑い」に関するオノマトペを訳す時、それと直接対応できる日本語オノマトペがあったとしても、中国語の「笑い」に関するオノマトペの意味を正確に表現できているわけではない。(7b)で述べたように、対応関係があるとしても、実際に対応する日中「笑い」に関するオノマトペの意味をそれぞれ考えると、両者の間にずれが認められる場合もある。

表6の日本語翻訳を見るとわかるように、「にこにこ」を用いて中国語の「笑い」に関するオノマトペを解釈する場合、その翻訳表現には複数の候補がある。“嘻嘻；笑嘻嘻；笑眯眯；笑吟吟；笑盈盈；笑呵呵”はすべて「にこにこ」でと訳されていることから、日本語ではそれらの意味区別ができなくなる可能性が高い。また、前も述べたように、日中オノマトペは重視される要素やイメージ喚起の明確性などの面で異なっている。そのため、単に1語1語を対応させるだけでは、意味上のずれが生じやすいと思われる。例を挙げると、以下のような意味上のずれが見られる。

(8) 【日本語→中国語】の場合(表5から)

- a. にこにこ：笑眯眯；笑嘻嘻
- b. にやにや：不出声地；另有含意的  
にたにた：不出声的；令人恐惧的
- c. けらけら：哈哈；大笑  
からから：哈哈；大笑貌
- d. へらへら：嘿嘿地傻笑；傻笑；憨笑

(9) 【中国語→日本語】の場合(表6から)

- a. 呵呵：ほほほ
- b. 嘻嘻：ふっふっ；にこにこ；くすくす  
咯咯：けらけら；げらげら；くすくす
- c. 嚙嚙：ハハハ；ほほほ
- d. 笑嘻嘻：にこにこ  
笑眯眯：にこにこ、微笑するさま

(8) は日本語から中国語へ訳される場合にずれが生じた例である。(8a) の「にこにこ」は「笑眯眯；笑嘻嘻」に対応しているが、「笑嘻嘻」は声を出しても構わない意味を持つ語であり、「にこにこ」が持つ「声を出さない」という意味は感じられなくなっている。(8b) の「にやにや」「にたにた」の中国語訳は両方とも「声を出さない」「マイナスなイメージ」という意味を持つ語で表されており、その訳だけからは、「にやにや」と「にこにこ」の区別ができない。(8c) も (8b) と同様に、中国語訳は殆ど同じ語を使っており、意味の区別ができない。さらに、「哈哈」は「ははは」と対応する語だとすると、「けらけら」「からから」と「ははは」の区別は何かという点が問題になる。(8d) の「へらへら」は“嘿嘿”に訳されているが、(5)(6)でも指摘したように、中国語で“嘿嘿”は必ずしもマイナスのイメージで用いられる語ではない。また、中国語で“傻笑；憨笑”は「無邪気な笑い様子」のイメージが強い語と言える。ここで、“嘿嘿”“傻笑；憨笑”という語によって「へらへら」の意味を理解することには、困難であると言える。

次に、(9) は中国語から日本語へ訳される場合に意味のずれが生じた例である。(9a) の“呵呵”は「ほほほ」に対応する。日本語で「ほほほ」は女性的な笑い声を表す語であるが、中国語の“呵呵”は女性だけに用いられる語ではない。(9b) の日本語訳を見ると、性質が全く逆の日本語の「笑い」に関するオノマトペによって中国語の「笑い」に関するオノマトペが訳されていると言える。例えば、“嘻嘻”の日本語訳には、声を出さずに笑う様子を表す「にこにこ」もあれば、声を生じる「くすくす」もある。“咯咯”の日本語訳も同様に、高い声で笑うさまを表す「けらけら」「げらげら」もあれば、しのび笑いの意味を持つ「くすくす」もある。それらの日本語訳を見るだけで中国語の“嘻嘻”“咯咯”の意味を把握することは難しい。(9c) の“嚶嚶”も「ハハハ」「ほほほ」に訳されており、それを高く笑う声と理解すれば良いか、控えめな笑う声で理解すれば良いかが混乱しやすい。(9d) の“笑嘻嘻”は声を出しても良いイメージであるが、「にこにこ」に訳される。その一方、“笑眯眯”は「目を細める」ということを強調している語であるが、その意味を含まない「にこにこ」と対応する形で訳されるのは、意味の上でのずれが生じやすいと推察できる。

以上の(8)(9)に挙げたように、日中オノマトペの対訳にはそれぞれの語に対応関係があるとしても、声の有無、イメージ喚起などの面から、意味の上でのずれが生じやすい。「笑い」について、日本語のオノマトペと中国語のオノマトペが含む意味内容や、重視される側面などが異なっている。日本語オノマトペの方が、単語として情報量が多いため、日中对訳する時に、単純にオノマトペの置き換えるという翻訳方法が、オノマトペの本来の意味の理解にとっては、不十分だと考えられる。

ここまで見てきたように、辞書の記述から、日中オノマトペの対訳は、オノマトペで対応できることもあれば、対応できない場合もある。さらに、オノマトペ同士が対応する場合にも、必ずしも他の語と明確に意味内容を区別できるような訳になっていないことがあると言える。

また、「笑い」に関するオノマトペについて、日本語では共感を求める語として使用され、内面的な側面に注目しているが、中国語では「笑う」という動作に注目し、内面的な要素が含まれる場合もある。しかし、その感情的な意味は文脈から判断することが多く、日本語のように明確でない。そのため、日中オノマトペの「笑い」に関するオノマトペの対照研究は、それぞれのオノマトペの意味素性を分析して、それらの特徴を把握した上で行わなければならない。従来のような、単に語と語を意味的に近いもので結びつけるという対照研究は、「笑い」に関するオノマトペのような感情を表現する語には適切ではないと言える。

## 6. おわりに

本稿では、辞書から日中両言語における「笑い」に関するオノマトペの相違点を見た。無論辞書だけでそれぞれの用法について詳しく検討することはできないが、辞書は学習者に頻繁に使用されるものであり、そこに現れた日中対訳の相違点を把握することは実際の用例の検討を進めていく上でも重要であると言える。今後は、日中対訳小説などを利用して、「笑い」に関するオノマトペが実際に使用された時に見られる、両言語の相違点を明らかにしていく。

先行研究を概観した際にも述べたように、今までの日中オノマトペ対照研究は、翻訳方法に関する研究が多い。それらの研究は、両言語に対応するオノマトペがあるか、なければどのように言い換えるか、あるいは省略して訳すか、というような翻訳の具体的な方法について考察している。つまり、これまでの研究の中心的な関心は、翻訳先の言語に対応するオノマトペがない場合の解決法を提示することにあつたため、対応するオノマトペがある場合にも意味の上ではずれがあるという点は十分に意識されてこなかったと言える。本研究の第5節で実施した検討を踏まえれば、両言語に対応するオノマトペがある場合にも、意味の上で適切に翻訳できているかという点については、更に考察していく必要があると言える。

今後は、日中対訳コーパスや、日中対訳小説などを利用して、日中「笑い」に関するオノマトペの実際の対訳状況を把握して対訳の実態を記述する必要がある。また、使用場面などを加えて、日中オノマトペが含んでいる意味的素性を分析することで、日中両言語におけるオノマトペの相違点をより詳細に明らかにすることを、今後の課題としたい。

## 参考文献

- 呉川 (2005) 『オノマトペを中心とした中日対照言語研究』, 白帝社.  
丹野真智俊 (2005) 『オノマトペ《擬音語・擬態語》を考える ―日本語音韻の心理学的研究―』, あいり出版社.  
耿二岭 (1986) 『汉语拟声词』, 湖北教育出版社.  
刘月华 (2001) 『实用现代汉语语法』, 商务印书馆.  
徐一平・譙燕・吴川・施建军 (2010) 『日语拟声拟态词研究』, 学苑出版社.

## 辞書

- 小野正弘 (2007) 『日本語オノマトペ辞典 擬音語・擬態語4500』, 小学館  
野口宗親 (1995) 『中国語擬音語辞典』, 東方書店.  
飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語擬態語用法辞典』, 東京堂出版  
《現代汉语词典》(第6版) (2012) 商务印书馆  
《现代汉语规范词典》(2012) 外语教学与研究出版社  
《新华大字典》(2012) 商务印书馆

## 【注】

- 注1 徐 (2010) 提案した翻訳方法について、具体的には以下になる：① 固有の象声詞に訳す；② 原文に従って象声詞を作る；③ 適当にはかの言葉に訳す；④ 畳語に訳す；⑤ 「一然」の形に訳す；⑥ 「形況詞」に訳す；⑦ 象声詞の隠喩的用法に訳す；⑧ 一般形容詞に訳す；⑨ 副詞に訳す；⑩ 動詞に訳す；⑪ 「一下子」の形に訳す；⑫ フレーズ単位で意識する；⑬ 省略してもいい
- 注2 具体的な研究対象は表1で表す。
- 注3 具体的な研究対象は表3で表す。
- 注4 本稿で使用した中国語の例文は、全て『現代汉语语料庫』(CCL) から抽出したものである。

(そん いつ 筑波大学大学院 人文社会科学研究所)